

【10/31 鳴海さんの会 質疑応答】

○ 不登校の子にしてはいけないことや声かけは？

→ 「不登校の子」だから特別にということはないです。1人の人間として考えるのが大切かと。強いていうなら、教育機会確保法にもあるように、休養の必要がある段階で休ませないと子どもが苦しくなるのではと思います。

○ どんなきっかけで不登校になりますか？どんなサポートができますか？

→ きっかけや原因は様々ですし、1つとは限らないです。きっかけとして多いのは、人間関係（いじめ/先生・友だちとの関係）です。

→ サポートについても、方法は様々です。強いて言うなら、不登校の時期や段階にもよりますが、まずは休養です。その後は自己決定させることが大切で、そのために多様な選択肢を提供することです。これは個人としても、行政としてもスタンスは変わらないかと。

○ 不登校がどのように社会に受け入れられ、どのような環境になることを目指しているのか？

→ 「不登校だから」特別にということ、僕個人としては特にはないです。強いて言うなら、「不登校=悪」とか「不登校=弱者」という、レッテルを作り出している大人は減ってほしいなと思います。

○ 不登校の時期に、何らかの能力が向上するのか？

→ 「不登校だから」特別にということ、ないと思います。何をどんな環境でどのくらいやったかで能力は向上していくので。

○ 小学校以外の選択肢をとった子たちのその後の進路についての考え方について

親として準備できること、調べておいた方がいいよということ

→ 子ども自身が納得していれば何でもいいのではないのでしょうか。大人がこうしなければならない、こうするべきという考えを捨て、多様な人生の選択肢を提供できるよう情報を取り続けることが大切です。5年後の世界すらどうなっていくのか予想できないことは、コロナが証明したと思います。

○ 子どもたちにとって、豊かな教育環境とは？

→ これは正解がないので、正直答えづらいです。強いて言えば、1人ひとりが自己決定できる力をつけることができる環境でしょうか。自分の人生は自分しか責任取れないので。そのために、子どもたちには自己決定・選択させる機会を確保することが大切だと思っています。

○ 子どもにとって安心、安全な場所って？そんな場所を作るには何を心がけたらいいのか？

→ これめっちゃ難しいですね。もちろん構成員によって変わりますが、安心はありのままでいいよ～ということ尊重し合えることかなと思います。そんな場所をつくるためには、まず作り手がその姿勢を行動で示すことだと思います。具体的には、失敗をいっぱいする、意外な一面を見せるなどですかね。

○ 学校のオンライン授業/IT学習について

→ 個人的には、どんどん進めて行ってほしいです。しかし、学校の体制が整うのに時間もかかるので、良質な学習ができないのであれば、ホームスクーリングを選択し自学をしてもいいのでは？と思うこともあります。

○ 居場所として、放課後デイと通級の利用をしています。担任は、2ヶ所行けてるなら学校にも給食だけや放課後だけ来させようとする担任に違和感があります。給食費を止めようとしたら、引き留められました。

→ 違和感やモヤモヤは、担任と話し合しましょう。良いか悪いかはおいといて、担任にもそうする理由があるはず。担任も学校のルールに縛られて、本音で行動できていないパターンもありますので。残念ながら、

良い先生ばかりではないのが、今の学校の現実です。担任が難しいのであれば、学校関係者でいいですし、放課後デイサービスや通級の方との関係が良好なのであれば、そちらを頼ればいいのではないのでしょうか。

○ どうすれば出席になるか知りたいです。

→ 教育機会確保法の7つの条件を満たせば、基本的に出席になります（最後は校長判断）。ちなみに、認定されているフリースクールや教育支援センター（適応指導教室）は出席になります。

<「教育機会確保法」7つの条件（要約）>

1) 保護者と学校との間に十分な連携・協力関係が保たれている。（「十分な」とはが不明確なので話合い）

2) ICT等を活用した学習も可能。

3) 訪問等による対面指導が適切に行われることが前提。

4) 子どもに合わせた計画的なプログラムで学習すること。

5) 校長は、その状況を十分に把握すること。

6) ICT等を活用した学習活動を出席扱いとするのは、基本的に学校外の公的機関や民間施設において相談・指導を受けられないような場合であること。

7) 学校の教育課程に照らし適切と判断される場合、学習活動の成果を評価に反映可能。

※ できればご自分で調べて理解していただき、お子さんや関係者と確認するといいです。

○ 出席にどこまでこだわればいいのでしょうか？

→ なぜ出席にこだわるのでしょうか？これといった正解はないですが、こだわりたいならこだわればいいのではないのでしょうか。「何のために」の目的がしっかりしていれば、こだわる度合いも決まってくるはずです。出席に何を求めるかではないのでしょうか。例えば、個人的にはあまり興味がないですが、皆勤賞にこだわるなら出席はマストですからね。

○ 出席認定に関する校長の裁量は？

→ ベースは教育機会確保法ですが、良くも悪くもすべて校長判断です。出席はあくまで手段でしかないので、その先の子どもたちや保護者のためになっているかという視点で考えていきたいものです。ちなみに鹿児島では、ちらほらフリースクールでの出席が認定されつつありますが、確保法すら知らない先生が多いのが現状です。逆に熊本市はかなり充実しており、教育長が率先して学校外の学び場について発信しています。しかし、現場を対応に追いついておらず、大変だという声も聞きます。

○ 不登校生徒の高校受験について

→ 出席していないと、内申点が悪くなり高校受験に響くと気にされる方が多いのではないのでしょうか？

結論から言うと、基本的にまず、学力調査（受験）さえしっかりできれば問題ないです。なぜなら不登校の場合は、評価の判断材料がないため内申点をつけることができないからです。そのときは、斜線（内申点の記載がない状態）になります。（小声ですが、先生方でもこの情報を知らずに、悪気なく内申点で脅しをかけてしまっていることも）

各高校の採点基準は明示されてないので、絶対に不利にならないとは言い切れないのですが、自己申告書等を提出すれば、高校側が配慮してくれるはずですよ。（小声ですが、学力調査がいいのに不登校という理由で入学できないというのは、高校側も言いづらいです。要は成績開示の際に説明責任がつかないのです。）

各自治体と高校の受験要項をしっかり把握した上で、学校や担任の先生に確認してみてください。

ちなみに私立高校の場合は、ほとんどの学校で不登校であることが不利になることはありません。

保護者の中には、どうしても内申点をつけてほしいということで、テストだけは無理にでも受けさせるという方がいますが、そうやってつけた内申点が逆に受験に不利になるケースもあります。（限られた評価の材料で内申点がつくよりは、斜線となり、学力検査だけで全体の評価をしてもらう方が、有利というイメージ）

もちろん、テストで高得点を取れるのであれば受けてもいいですが、その際学校の先生に、成績の点数配分を確認しておくといいでしょう。成績の付け方は、先生によってそれぞれなので。例えば、定期テスト重視の場合や出席や提出物重視の場合もあるからです。

話は逸れますが、そこまで全日制の高校にこだわる必要があるのか？そこまでして高校に行く必要があるのか？という選択肢をもっておくといいのかなと思います。ちなみに、高校行かなくても大学は行けるので。

○ 不登校児童生徒の保護者との接し方について

→ 「不登校だから」特別にということとは、特にないです。1人の人間として考えるのが大切かと。強いて言うなら、自分1人で抱え込まず餅は餅屋にですかね。専門家や病院に診てもらった方がいい方もいるので。お伝えするときは、正直に自分だけでは力量不足（対応できない）なので専門家に…とお話すればいいと思います。

○ 家庭で親子で勉強するのはありますか？例えばオンライン教材を一緒に学ぶなど。スタディサプリを親子でやってみたいなと思っています。

→ ダメということは基本的にないと思います。個人的には、良い選択をしていると思います。どんどんやってみてください。なかなかうまくいかないときには、Youtube や Twitter 等を見れば良い活用情報があります。

○ 学校外の学ぶ場所の選択肢は、地域格差や経済格差が影響します。勉強を親が教える限界等もある中で、経済的な補助があるといいなあとと思います。何か、出来ないものなのでしょうか。

また、学校の代替としてでなく、海外のように一つの選択肢として、ホームスクールが選べると親子ともに気持ち軽くなると思いますが、日本で可能でしょうか？

→ 学校外の学びに関しては、オンラインが発展した今、もはや地域格差も経済格差もあまり関係ないと思います。強いて言うなら、情報格差ならあり得ます。経済的な補助は現状あまりありませんが、無料で学べる教材は数多ありますので、そちらをお試しになられてみてはいかがでしょうか？それでも難しい場合は、少しコストはかかりますが、前述のスタディサプリの契約と学習する習慣を身に付けられるコミュニティに入ることをおすすめします。宣伝になってしましますが、僕が共同代表を務める親子オンラインスクール cocowith は、月額3000円でネット上の教室が24時間使い放題です。このような安価かつ安心できるコミュニティを探してみるといいかもしれません。すると、ホームスクーリングもそんなにハードルは高くなく、当たり前選択肢になるのではないのでしょうか。日本でも十分可能ですし、Twitter などを見ているとホームスクーラーは結構います。できないと思っていたらいつまでもできませんが、少し継続してみると意外とできるものです。できない理由を考えるのは簡単ですが、できる理由を探してみてもいいでしょうか？まずは小さく（1日10分からでも）やってみることをおすすめします。

○ 不登校に関する行政の働きかけについて

→ これはもう言い出したらキリがないくらいあります。もうみなさんが思っている事は大体、僕も思っていると思います。ここでは、現実的な話を1点と理想を1点だけ。前者は、教育支援センター（適応指導教室）の外部委託を進めてほしいです。教育支援センターが学校の代替を担ってもいいですし、フリースクールの代替を担ってもいいですし、要はオルタナティブになってほしいということです。退職校長の天下りや手の空いた素人パートさんより、民間でしっかり教育に関わっている人の方が、良質な教育機会を提供できると思います。後者に関しては、クビになることはめったにないですから、安定を捨てて挑戦してください。変化の激しい時代のこの世の中、前例踏襲ではマッチしないことが増えてきます。変化を恐れず挑戦するためにも学び続けてください。何のための公務員なのか自覚をもっていたいただきたいです。

○ 学校や行政が明日からできることはありますか？

→ 前述したとおりですが、学び続けることですね。不登校に関して言えば、学校は学校が最大限魅力的な場所になるように、行政は学校が最大限魅力的な場所になるようにサポートすることですかね。そのために、何か新しい施策や実践をするというよりは、どんどんやることを減らすための行動を日々やってほしいですね。働き方改革なしに教育改革なしなので。明日から毎日できることは、「本当に必要なことなのか？」と唱えることでしょうか？

○ 学校や保護者、社会などに対して、変わって欲しいこと、メッセージがありますか？

→ とりあえず、大人自身が楽しく幸せに生活してほしいなど。子どもは大人の背中を見て育つので。それが最高の教育だと思っています。子どもに教えることなんて何もないですよ。ただ背中を堂々と見せればいいです。